

DATA FILE



単斜晶系

名前	STILBITE (スティルバイト) / 束沸石
化学組成	$(\text{Ca}_{0.5}, \text{Na}, \text{K})_9(\text{Al}_9\text{Si}_{27}\text{O}_{72}) \cdot 28\text{H}_2\text{O}$
色	白色、ピンク色、黄色、褐色
光沢	ガラス光沢、真珠光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	完全
断口	不規則
硬度	4
比重	2.2

そく ふつ せき

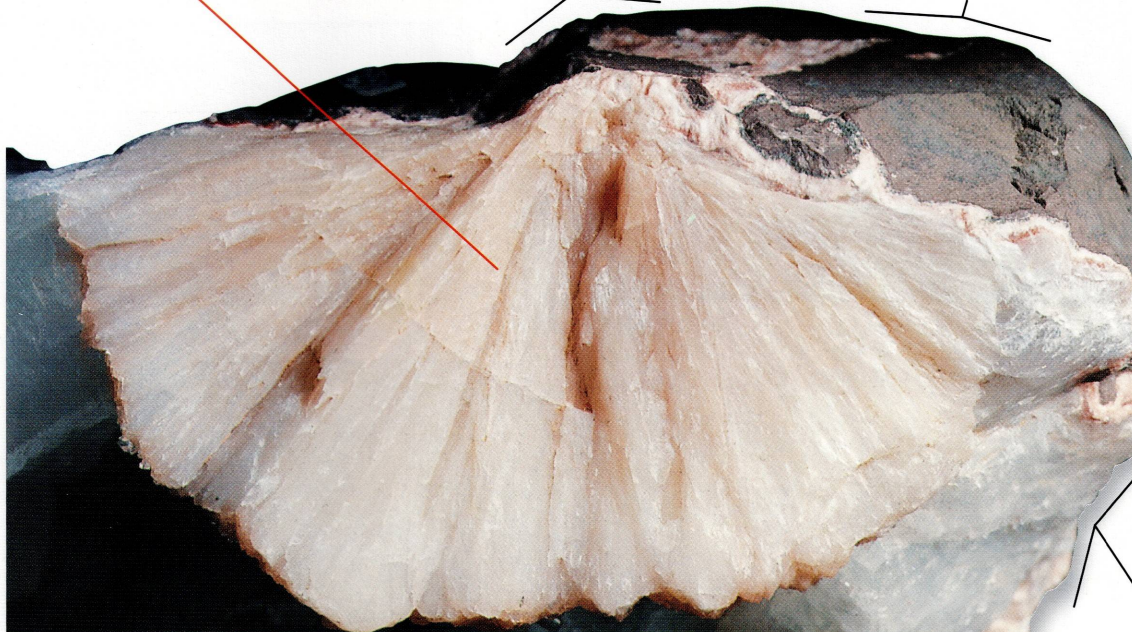
束沸石

STILBITE

火山岩や貫入岩の隙間に生成することが多い。

劈開は完全で、ハンマーでたたくと不規則な断口を示す。

放射状に成長した束沸石。



ガラスのような光沢や、劈開と平行に真珠のような光沢を持つ。

中央がくびれた束状や放射状のほか、球状などでも産する。

方解石、輝沸石、菱沸石、石英、カリ長石などと共生する。

鉱物学者アウイによる発見

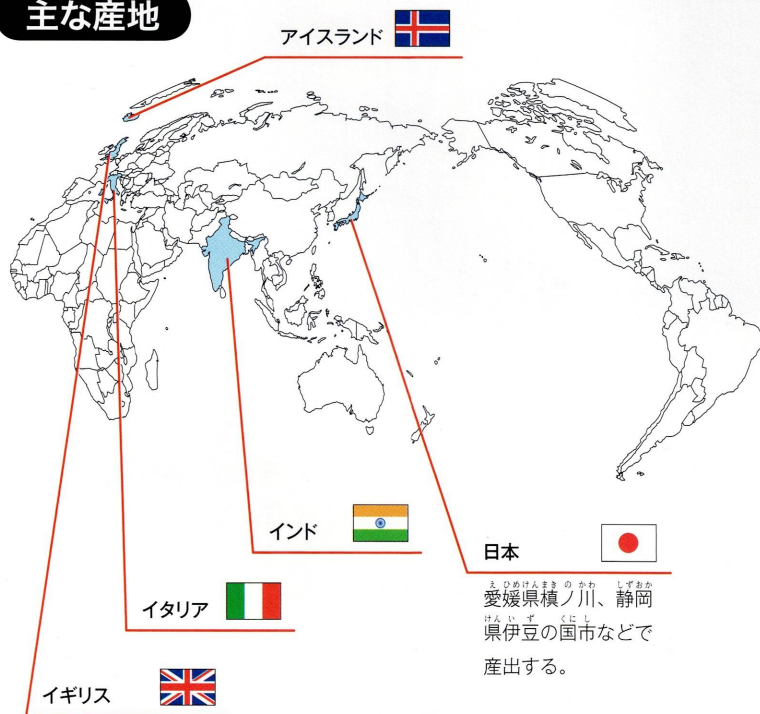
1801年にフランスの鉱物学者ルネ・ジュスト・アウイ（1743～1822年）によって発見された束沸石の結晶は、束状のほかにも球状や放射状の集合体であられ、双晶して十字架のような形を示すものもある。その独特なガラス光沢から、「きらめき」を意味するギリシャ語「スティルボス」にちなんで「スティルバイト」という英名がつけられた。しかし、当時、アウイが調べていた標本は、異なる

ソ
束沸石



▲真珠光沢を示す束沸石。

主な産地



▼緑色の魚眼石をとまなう束沸石。



る化学組成の鉱物がいくつか含まれていたものだった。その後の研究で事実が判明し、「スティルバイト」はアウイが調べた鉱物群のうちの一種類に対して用いられる名称になったのだった。ちなみに、和名は、両端が広がって中央がくびれた束状の集合体をつくることに由来している。

束状の秘密

束沸石に見られる独特の束状は、結晶構造の不均質と、それにとまなう結晶成長の違いによって形成される。結晶成長の早い部分が放射状に広がる一方で、遅い部分がくびれのようにになっていく。

▼束沸石の放射状集合体。イタリア産。

